

東北大学学生ボランティア支援10年検証シンポジウム

主催：東北大学高度教養教育・学生支援機構
共催：日本財団学生ボランティアセンター 被災地に学ぶ会
東北大学学生ボランティア支援10年を振り返る有志の会

2021年12月5日（日）
13:00～16:10
（～16:50感想交換会）



東北大学では、東日本大震災の発災以降、東日本大震災学生ボランティア支援室（2011.6～）、課外・ボランティア活動支援センター（2014.4～）などを通して、学生ボランティアによる被災地・被災者支援および伝承・防災の取り組みを支援してきました。

2018年度からは、日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）との協定により「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」を開始し、ボランティア活動（課外）と授業（正課）を有機的に連携させた取り組みも推進しています。その結果、多くの学生が被災者・被災地支援および伝承・防災に関与し、学生自身あるいは地域社会に対し一定のインパクトを与えてきたと考えられます。

そこで本シンポジウムは、10年という節目に、日本財団学生ボランティアセンターとの協定事業をはじめとする東北大学の取り組みの歴史をふりかえり、多角的視点から取り組みの意義や課題、今後の展望について議論する場とします。

実施形式

対面、オンライン（zoom）の併用
対面の実施会場：東北大学川内北キャンパスマルチメディア研究棟M206

定員

100名（対面：50名、オンライン：50名）

対象

東北大学の教職員、東北大学の学生ボランティア（OB・OG含む）、全国の大学ボランティアセンター関係者・学生ボランティア、ボランティア団体・NPO、地域の皆さま等

参加方法

事前申し込み制。[URLをクリック](#)、もしくはQRコードからご登録ください。



問い合わせ先

東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター（担当：松原）
TEL: 022-795-4948 E-Mail: vol.tohoku.univ@gmail.com

タイムスケジュール

13:00 開会挨拶

滝澤 博胤氏
理事・副学長（教育・学生支援担当）
高度教養教育・学生支援機構 機構長

13:05 第一部：講演 10年の取り組みの意義・課題の検証

① 東日本大震災直後の学生ボランティア支援からみる意義・課題

米村 滋人氏
元 法学研究科准教授、東日本大震災学生ボランティア支援室担当教員
（現 東京大学法学部教授）

② ボランティア活動支援からサービスラーニングへの展開—学生支援・地域貢献・市民性教育の一体的展開とその意義・課題—

藤室 玲治氏
元 高度教養教育・学生支援機構特任准教授、東日本大震災学生ボランティア支援室コーディネーター（現 被災地に学ぶ会代表）

③ 正課・課外リンクによる被災者／被災地支援の継続とその意義・課題

松原 久
高度教養教育・学生支援機構特任助教
元 東日本大震災学生ボランティア支援室学生スタッフ

④ 質疑応答（専門家等からのコメント含む）

14:25 第二部：リレートーク 学生の取り組み紹介と関係者からのコメント

① 継続した被災地支援の取り組み（石巻市雄勝町波板地区の事例）

学生の視点から：穴澤 ゆずさん
東北大学インクストーンズ／生命科学研究所博士前期課程1年

地域の視点から：阿部 晃成氏
石巻市雄勝町出身／なみいたEDGE代表／元 高度教養教育・学生支援機構 学術研究員

② 正課授業から生まれた学生ボランティアの取り組み（たなぼたの事例）

学生の視点から：武田 萌さん・宇津敬祐さん
東北大学たなぼた／農学研究科博士前期課程2年・教育学部4年

地域の視点から：田上 琢磨氏
一般社団法人石巻じちれん

③ 被災地支援の経験から伝承・防災につなげる取り組み（もしとさの事例）

学生の視点から：渡邊 勇さん
東北大学もしとさ／工学研究科博士前期課程2年

実践者の視点から：藤間 千尋氏
公益社団法人3.11みらいサポート

15:50 全体コメント

西出 優子氏（東北大学大学院 経済学研究科 教授 / 学生ボランティア活動支援委員会委員）
室崎 益輝氏（兵庫県立大学 大学院 減災復興政策研究科 研究科長/教授）
宮腰 義仁氏（日本財団学生ボランティアセンター）

16:05 閉会挨拶

沢渡 一登氏
日本財団学生ボランティアセンター常務理事